

# どこでもドアのかぎ 9

## 目次

石垣健二	( 幼児教育学科 )	2
石川伊織	( 国際教養学科 )	3
石栗彩子	( 英文学科 )	8
板垣俊一	( 国際教養学科 )	11
小谷一明	( 英文学科 )	12
角張慶子	( 幼児教育学科 )	14
木佐木哲朗	( 国際教養学科 )	14
岸井勇雄	( 学長 )	15
黒田俊郎	( 国際教養学科 )	16
佐藤拓也	( 生活福祉専攻 )	17
田中景	( 国際教養学科 )	19
戸潤幸夫	( 幼児教育学科 )	21
福嶋秩子	( 英文学科 )	22
水上則子	( 国際教養学科 )	24
特集 詩の部屋への五つの扉		
板垣俊一	( 国際教養学科 )	25
太田優子	( 食物栄養専攻 )	26
角張慶子	( 幼児教育学科 )	27
柳町裕子	( 国際教養学科 )	28
アンケートのお願い		29

## 自分の顔が許せない！

中村うさぎ 石井政之 著  
平凡社新書

自分の顔は完璧だ！そう本気で言いきれぬ人は希少でしょう。古今東西老若男女、美に対する憧れはついでることがありません。中村うさぎは誰もが知る整形美女。石井は顔のアザが原因で、人間の「顔」に固執してきたジャーナリスト。顔（肉体）に対する本音がスパークする対談集です。両極端なふたりのようですが、二人の話には驚くほど共感させられっぱなしです。われわれの誰もがすでに「より美しく」という同じ土俵に立たされているからでしょうか。つまるところ、人間が尊ぶべきは、気高き精神か、それともやはり肉体か...同出版、石井『肉体不平等』も好著です。

## かもめのジョナサン

リチャード・バック 著  
新潮文庫

『どこでもドア』に参加させてもらうのも最後ということで、ボク自身の愛読書をひとつ。専門家の批評はいろいろとあるのでしょうが、ボク自身はどんなときにこの本を手にとってきたらうと考えてみると。勇気を奮いたたせようとするとき？人間関係に行きづまったとき？自己嫌悪に苦しんでいるとき？。うん、これじゃよくわからない。でもいつ読んでもボクなりにひびく箇所は確かにある。「重要なのは食べることでなくて、飛ぶことだ」。やはりここか。でも、それは「人間はパンのみによって生きるのではない」というあの格言とは、どこかニュアンスが違っている。どう違うのだろうか。ボクの人生を通して吟味しなくて。...いずれにせよ、ジョナサンに憧れる凡人さを自覚することになってしまいそうだが。

## 縁日お散歩図鑑

オオカワヨウコ 著  
廣済堂出版(2002)

東京は神田・浅草のお祭り・縁日をスケッチした本。絵ばかりだから「図鑑」なんだけれど、なかなか読み応えがあります。これをまねして、白山神社や蒲原神社のお祭と縁日を取材して絵本にしたら面白いかもしれません。「ぽっぽ焼き」は東京にはないから、結構ウケルかもしれません。

## 棟梁たちの西洋館

増田彰久 著  
中央公論社(2004)

明治時代に日本の大工さんたちが見よう見まね建てた洋風の建物の写真集。新潟運上所(税関)も出てます。近いところでは山形の済生館病院も。この病院を作らせたのは、鬼県令として知られた三島通庸で、この人が赴任した地方では圧政に対する反対運動が続発したことで有名。ところが、山形では、洋式の医学を導入してこの済生館病院を作った人物として評価が高いのです。山形城の二ノ丸に移築されたこの病院は今でも見ることができます。せっかくの名建築なのに、背後に無粋な超高層ビルが建ってしまって、興ざめなのは残念です。

# 秩父事件

秩父事件研究顕彰会（編）  
新日本出版社

『棟梁たちの西洋館』でも触れた鬼島令・三島通庸は赴任する先々で大土木工事を起こして農民の反発を買います。やがてそれは自由党左派による福島事件・加波山事件などの激化事件へと発展します。その頂点となったのは明治17年の秩父事件でした。武装蜂起した民衆は埼玉県秩父郡の郡役所を占拠します。立憲政体の樹立を最終目標として日本陸軍と10日にわたって交戦し、敗北します。昨年は事件から120年目の記念の年でした。現在の日本の民主主義を問い直すための重要な参照点となる事件です。

# 定刻発車

三戸裕子 著  
交通新聞社(2000)

新潟のJRのダイヤはいつもめちゃくちゃだけれど、これは雪と風のせい。でも一般に日本の鉄道は定時運転されていることになっています。でも、本当にすごいのはそこじゃない、と著者は言います。国民もまた電車は正確な時刻で走って当然と思っているし、鉄道会社もそれに応えるのが当然と思っているところだ、ということです。こんな国は他にはないのですね。一見オタクな鉄道ファン向けのように書いて、実は時間をめぐる日本思想史の本になっているのがすごい！

# サヨナラ、学校化社会

上野千鶴子 著  
太郎次郎社(2002)

東大の先生が、「学校なんか馬鹿らしい」と言い、県短の教員のわたしが「そうだそうだ」と薦める本……これって相当いかがわしいことだけど、ホントのことです。みんな、学校に毒されてないかい？

## 私たちの独立起業ヒストリーin新潟

ワーキングウィメンズアソシエーション（編著）  
新潟日報サービスセンター(2004)

新潟で会社を興してしまった元気な女性たちを紹介する本。将来のこと・就職のことで悩んでいる人にはよい刺激になります。この本の中で紹介されている尾崎歩さんには、わたしもお会いしてお話をうかがったことがあります。若い人たちの心のなかでくすぶっていることを見つけ出して、「やっごらんよ」と言ってくれる、とてもすてきな人でした。もともとは非売品だったこの本、あまりに評判がよいので書店での販売に踏み切ったというスグレモノです。

# 上司は思いつきでものを言う

橋本治 著

集英社新書(2004)

上司は現場を離れてしまった人で、現場を離れてしまった人が現場にいる部下に気の利いたコメントをしようとすればするほど、トンチンカンなことを言う羽目になる……というおはなし。上司というのは思いつきでしかものを言えなくなってしまった人のことだから、当然思いつきでものを言うしかないわけです。だから、現場から離れた人を大量に作ってしまうような組織はるくなものではない、ということになります。総務という部署ができる会社はもうおしまいだ、などなど。とても刺激的です。

# 永遠平和のために

イマヌエル・カント 著

岩波文庫

こういう時だからやっぱり読んでおいた方がいいのが「古典」というものでしょう。国連の元になる思想が述べられているというので有名な本です。カントにしては短い本ですけど、けして読みやすい本ではありません。それに、どう見ても誤訳としか思えない訳文が岩波文庫版にも理想社の『カント全集』版にも残っています。でも、これは戦前の日本政府がカントの著作を危険思想とみなして翻訳を検閲していたことの後遺症らしいということが、わたしも参加している研究会での検討でわかってきました。一人で読むのは難しい本ですが、必要なら、わたしがレクチャーに出うかがいます。ぜひ読んでみてください。

# 華氏451度

レイ・ブラッドベリ 著  
ハヤカワ文庫

こういう時だからやっぱり読んでおいた方がいいのが「古典」というものでしょう。マイケル・ムーア監督の映画で有名になった『華氏911』はこの小説のタイトルのもじりです。華氏451度というのは紙が発火する温度。作品で描かれているのは、書物を読むことを禁止する近未来の全体主義国家。書物を発見して焚書する仕事をしていた主人公の公務員が書物にのめりこんでいくのが圧巻。

## <女中>イメージの家庭文化史

清水美知子 著  
世界思想社(2004)

<下婢> <下女>と呼ばれていた家事労働のために雇われた女性が、<女中>と呼ばれるようになり、さらに<お手伝いさん>と変わっていく過程と、それに伴う家庭の変質の歴史について書かれた本。とても真面目な本なので、最近はやりの<メイド・カフェ>のことなんか出てこないのだけれど、日本的な<女中>や<お手伝いさん>と、少々バタ臭い<メイド>は明らかに違って、そこにもジェンダーをめぐるいろいろなイメージがまわり付いているはず。だって、<メイド・カフェ>はブームだけれど、<女中カフェ>はないものね。こっちは研究はサブカルチャー専門のわたしがやりましょうか？！

# 知識人とは何か

エドワード・サイード 著  
平凡社

わたしたちの社会は「知識人」と呼ばれる人々によって支えられ、動かされているといってもいいでしょう。そういう「知識人」には2つのタイプがあります。1つは何かの分野のエキスパートやプロの人たち。サイードは、そういう人々は世論を形成し、世論を体制順応型に誘導し、有識者からなる少数の政権担当者集団にすべてをまかせるよう大衆をそそのかすと言います。それらの「プロ」はサイードにとって真の「知識人」ではありません。サイードの言う「知識人」とは「亡命者にして周辺的存在であり、またアマチュアであり、さらには権力に対して真実を語ろうとする言葉の使い手」なのです。もっと言えば、「国粹的民族主義に対して、同業組合的集団思考に対して、階級意識に対して、白人・男性優位主義に対して、異議申し立てをする」人なのです。たぶんサイードの言う意味での「知識人」は、今、知識人と呼ばれている人の多くにあてはまらないでしょう。現代において「知識人」と呼ばれる人々の多くが世俗権力にまるめこまれてしまっていることをサイードは鋭く指摘しています。そういう人々は「国家への忠誠を説いてまわる」のですが、サイードによれば、むしろそうした国家への忠誠の圧力からどうやって相対的に自律できるかを模索することが知識人の責務なのです。それをするには周辺の視点、そして批判的の視点を持ち続ける必要があります。

長くなりますが、次の部分を読んでください。「わたしが使う意味で言う知識人とは、その根底において、けっして調停者でもなければコンセンサス形成者でもなく、批判的センスにすべてを賭ける人間である。つまり、安易な公式見解や既成の紋切り型表現をこぼむ人間であり、なかんずく権力の側にある者や伝統の側にある者が語ったり、おこなったりしていることを検証もなしに無条件に追認することに対し、どこまでも批判を投げかける人間である。ただたんに受け身のかたちで、だだをこねるのではない。積極的に批判を公

的な場で口にするのである。」どうでしょうか。このような行動をとるのは勇気がいることですよ。でも大事なことだと思いませんか。

考えてみてください。みなさんは自分のまわりに起きている状況に流されていることはないでしょうか？いつもまわりの状況をよく見て、そこに疑い（批判精神）をもってください。そして批判を口に出してください。批判というのは不平不満ではありません。システムのありかた、規則や規制、ものごとが進む過程や結論に異議を唱えることです。なあなあでうまくその場を収めようとする力には気をつけてください。それに従うと一時的には楽ですが、いつのまにか譲ってはいけない部分を譲ってしまっているかもしれません。権力者や伝統の力に対抗してください。みなさんはいつも従う側である必要はありません。みなさんには、誰かに指示されたことや、昔から決まっていることを変えていく力があるのです。そして自分の使う「言葉」に意識的になってください。まわりの人がよく使う表現を使うと安心できますが、それは知らず知らずのうちに、みなさんが言葉を発したり、言葉を作り出す能力を弱めていきます。美しい、耳になじむ、心地のよい表現を信用しないでください。そういう言葉が思考をストップさせ、自動的な行動へと誘っているのです。心地よい言葉に浸っているうちに社会が変わっていてもみなさんは気づかないかもしれません。

自分しか使わないような言葉で話そうとしてみましよう。全員が理解してくれることはないかもしれませんが、それが自分の言葉です。自分の言うことが誰にでも理解されるときこそ気をつけたほうがいいかもしれません。そのときわたしたちはステレオタイプな、耳になじむ表現ばかりを使っているかもしれないのです。よくわからないと思うことに目をそむけないでください。「わからない」と口に出すとわかろうとする意欲が失われます。わからないと思えるものほど興味をもって読んだり聞いたりしてください。なぜならわからないことはわたしたちにとって新しいことであることが多いのです。わからないことをわかろうとしたとき、思いもかけない新たな知識にめぐりあうかもしれません。ですから「わからない」ことは楽しいことなのです。そういう意味では、この『知識人とは何か』は「わからない」と思う部分があくつもあるかもしれません。でも「ああ、この文章はわかるな」というところもあるはず。全体がわからなくても、ところどころわかるだけでいいのです。また時間がたったときに読むと、必ずわかる部分が増えているはず。

この本は「知識人」についての本ということになっていますが、みなさんにも、そして私にもとても関係のあることが書かれています。というより、大学という場で知識を交し合うわたしたちすべてが、「知識人」と言ってもいいかもしれません。そうだとすればこれは「わたしたち」についての本なのです。自分にかかわることが書かれているという気持ちでこの本を読んでみることをおすすめします。



# 人間社会の形成

今西錦司 著

日本放送出版協会（1995年、第26版）

多くの動物が群れを作って生きている。人間社会の都市も国家も群れの一つだと見ることができよう。しかし、人間に最も近いゴリラなどの類人猿の場合も、人間と違って群れは基本的に誰にも頼ることのない自立した個体どうしの集まりだと著者はいう。ところが人間は、なかなか自立しない子どもと子持ちのメスにハンディがあるため、群れと共に移動することができず、群れ全体が定住と分業を余儀なくされた。そこに動物の群れとは異なった人間社会の原型ができた、と著者はいう。人間社会の在り方を動物との比較で考察した興味ぶかい本です。文章も平易、ページ数もわずか197頁。読んでみてはいかががでしょうか。



❖ 英文 小谷一明 ❖

## 魂の流れゆく果て

梁石日（ヤンソギル） 著  
光文社 文庫

昨年映画化された『血と骨』（北野武主演）の作者が、自伝的に大阪生野区界隈を紹介してくれます。この本を携えて大阪に行き、写真の場所を歩いてみました。一番行きたかった由緒ある斎場はすでに取り壊され、安売りスーパーが陣取っていました。最も恐れていたことです。ただ壁の一部が残っており、その縁を偲ぶことはできました。作者は元タクシー運転手で、タクシードライバー小説の開拓者。『月はどっちに出ている』も彼の作品が映画化されたものです。最近、単行本が文庫となりました。

## 石牟礼道子全集 第1巻

石牟礼道子 著  
藤原書店

個人で購入することは難しいと思いますが、もし図書館などで見かけたら手にとって欲しいと思う本です。石牟礼さんは昨年来校した森崎和江さんとともに戦後から活躍している九州の女性作家ですが、ようやく全集が出始めました。特に第一巻は初期の短編や詩、エッセイが採録されており、それ以降の『天湖』といった小説などで展開される重厚な言語感覚にあふれています。『苦海浄土』など水俣病を考え続けてきた石牟礼さんは、昨年『不知火』という能を水俣で上梓しテレビでも放映されました。

# Sister Outsider

Audre Lorde 著  
The Crossing Press

昨年は、李静和の『つばやきの政治学』(近著に『求めの政治学』がある)、リサ・ゴウのインタビュー『私という旅』といった個を越えるつばやきに、遅まきながら出会えた年でした。そしてリサ・ゴウが紹介しているオードリー・ロード(Audre Lorde)の著作からは、大団円となるインパクトを受けました。ロードは詩人ですが、初期の詩集のほとんどは入手不可となっており、The Collected Poems of Audre Lordeで代表的な詩にふれるができるのみです。その一方で、自伝やエッセイ集はまだネット書店のアマゾンなどを通して入手できます。なかでも米国フェミニズムの旗手アドリエンヌ・リッチによるインタビューや、詩的な表現から豊かな思弁が生まれてくるエッセイを収めたSister Outsiderは、あれかこれかの二者択一ではない道で生きるための情報を伝えてくれます。思弁性の豊かな表現が、生活に役立つ情報となることを知りました。

## ナインインタビューズ 柴田元幸と 9人の作家たち(CD付き)

アルク

日英両言語で作家へのインタビュー内容を紹介する本です。CDが2枚付いています。表題にインタビュー者自身の名前を書き入れる出版側の態度は気に入りませんが、それでも作家たちの声が聞けることはこのうえない喜びです。なかでも電話ごしのポール・オースターや漫画家アート・スピーグルマンのインタビューなど、聞きたいことのたくさんある相手に対しては、好きだからこそ言いたいことををずかずかとたまたみかけていく面白さがあります。本は読まず、通勤中に車の中でCDを聴き始めたのですが意外にも耐久性のある内容でした。

❖ 幼児教育 角張慶子 ❖

## 我らが隣人の犯罪

宮部みゆき 著  
文春文庫

作者は長編作「理由」で直木賞を受賞したミステリー作家ですが、彼女の作品を読むたびにミステリー作家であるということをお忘れそうになります。彼女の長編を読むと、様々な人の人生が丁寧に描かれていて、それが寄せ集まって一つの話となる「人生の短編集」のような印象をいつも受けます。なぜか切なさとししてときに優しさを感じるのです。また、彼女の書く短編小説はミステリーなのになぜか泣けてくる。そして文章の運び、テンポが大変心地いい。この本で言うならば、三編目に収録の「サボテンの花」などは、“ん～～”とうなった後、何度も何度も読み返すとより味わい深くなる、そして誰かに伝えたいくなる、そんなお話のような気がします。

❖ 国際教養 木佐木哲朗 ❖

## 木を見る西洋人、森を見る東洋人

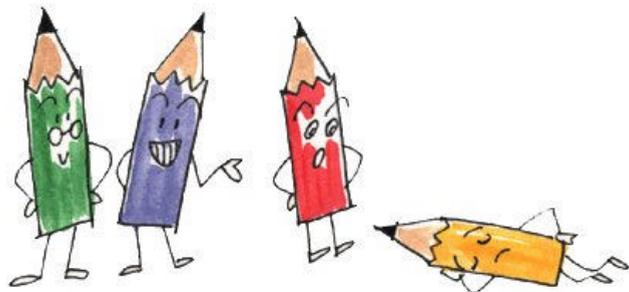
リチャード・E・ニスベット著、村本由紀子訳  
ダイヤモンド社

人の心や思考のかたちが文化によっていかに異なり、その違いはなぜ生じるのかという問いに対し、心理学実験室で検証して、西洋人のそれは「分析的」であり、東洋人のそれは「包括的」であると示した。認知科学の前提に疑問を投げかけ、異なる思考法の長所が交わり合う世界に期待を込めた興味深い本である。

# 子育て小事典

岸井勇雄 著  
エイデル研究所

自分の本を推せんするのは恥ずべきことだと知りつつ、やっぱり、これしかない、と思うのです。理由は、読んでみていただくのが一番です。実用としても教養としても、きっと一生の役に立つでしょう。



# 古事記の世界

西郷信綱 著  
岩波新書

# 古代人と夢

西郷信綱 著  
平凡社ライブラリー

神話をたんなる幻想的な物語として消費し、恣意的に読み流してはならない。西郷信綱の『古事記の世界』を読むと、つよくそのことを実感する。西郷は、私たちにとって親しみ深い古典である古事記の物語を古代の人びとの生の全体的経験との関連で構造的に把握し、古代王権の成立過程を背景としながら、古代人の心性、生活、風景を生き生きと眼前に蘇らせてくれる。

他方、『古代人と夢』では、西郷は、古代人を「夢を信じた人びと」と定義したうえで、夢という観点から古代人の精神史を多彩に読み解いている。西郷によれば、古代と中世とのあいだには、日本人の精神史上、大きな変化が生じ、夢はかつてほど信じられなくなったという。鎌倉初期、29歳の親鸞の回心開悟を決定づけた京都六角堂の夢告を最後に、夢がもうひとつの「現実」として信じられた時代は終わりを告げるのだが、西郷は、このエピソードをめぐってつぎのように記している。

「魂は自己のなかに棲む他者である。したがって危機に臨むとそれは我にもあらずあくがれ出でもするが、同時に聖所のねむりに訪れる夢において、それはしばしば自己が自己を超越するという奇跡をも実現する。回心とは考えること、思惟することによってではなく、このように（夢に）見ることによって信が炸裂するのをいうのではないか。」

ロマン主義的心情とはまったく対蹠的な、字義とテキストへのこだわりにおいて徹底的な碩学の言葉であるだけに、そこにしめされた人間精神のありようは感動的でさえある。

❖ 福祉 佐藤拓也 ❖

# 非ユークリッド幾何の世界 幾何学の原点をさぐる

寺阪英孝 著

講談社（ブルーバックス）、1977年

ある直線上にない点Aを通過してこの直線と平行な直線は何本引けますか？普通はこれが1本しか引けないと考えるでしょう。こう考えるのはユークリッド幾何学、学校で学んできた「図形」です。ところが、これがなんと2本引けるという有力な考え方もあるのです。非ユークリッド幾何学と言います。普通、自然科学では真実は1つしかないと思われがちですが、そんな自然科学の代表とも言える数学にさえ、2つの考え方が成り立ってしまうのです。しかも、そのどちらも「正しい」のです。

最近では、自分だけが正しいと思いこんで相手の立場を最初から認めない人も少なくありません。曰く、「今の若者は だ」「文系の人はずっと だ」「イラクや北朝鮮は悪の枢軸だ」・・・。1つのテーマに対して複数の「正しい」見方が同時に成り立ちうること。これを意識しておくことは社会でも生活でもとても大切です。数学の本ですがそんなことを思いながら読みました。

# 戦争と有事法制

小池政行 著

講談社現代新書，2004年

「有事」＝「普段と変わった事」ですから、「有事法制」とは“日本が外国から攻撃された時でも対応できるような体制を整えておく法律”といったところでしょうか。どこかの首相曰く「備えあれば憂いなし！」ところが、日米政府が本当に想定している「有事」とは、「直接的な日本への侵略」よりも、極東（＝日本周辺）を越えた遙か彼方であっても日米の安全保障にとって脅威となると見なされればすべての侵略行為が「有事」である、ということなのです。つまり、遠くイラクやアフガニスタンの地で何かが起きても、それが日米にとって脅威であると認定されるならば・・・？（続きは本書）。

著者は、こうした事実を、元外交官らしく実に冷静に述べていきます。その見解の全てに賛成するわけではありませんが、この冷静すぎて少し怖いぐらいの議論の運びはこの種の本としては珍しく、かえって有事法制の問題性が客観的に伝わってきます。多少難しいかもしれませんが、挑戦してみてください。ちなみに有事法制は既に成立しています。

# クォ ヴァディス (上・中・下)

シェンキエヴィチ著、河野与一訳  
岩波文庫

私が大学生になって初めて読んだ長編小説です。ネロ皇帝時代のローマ帝国が舞台です。政治文化の退廃期にあったローマに新たにキリスト教が大衆に広まります。無能な皇帝に内心は愛想をつかせつつも追従する者、既存の社会秩序をゆるがす危険分子であるとしてキリスト教徒の弾圧を唱える者、キリスト教に感化される者、そして、キリスト教徒に同情しながら旧来のギリシア・ローマ思想に自己アイデンティティを見いだす者。どきどき、はらはら、息もつかせぬ物語の展開の中で、文化の衝突、愛、信念、美学について、じっくり考えさせてくれる本です。

# 悲しみよこんにちは

フランソワ・ズ・サガン著、朝吹登水子訳  
新潮文庫

サガン18歳のときの処女作。ハンサムでプレイボーイな父親と一緒に気ままな生活を楽しんでいた高校生の主人公が、父親の新しい才色兼備の婚約者を死に追いやってしまいます。数年前にこの本をあらためて読んで、すごいと思いました。主人公は鋭い感覚や細やかな感情を実感しつつも、そんな自分をすごく冷めた目で見えています。主人公の意識の流れに表出する矛盾に満ちた二面性。これにいちいちうなずけます。ちなみに、サガンは二面性を司る双子座生まれだったそうです。

# 身体感覚を取り戻すー腰・ハラ文化の再生ー

斎藤 孝 著  
日本放送出版協会

「腰を据える」、「肚を決める」という言葉が示すとおり、もともと日本人は身体の中心的感覚を腰と肚に据えていた。ところが、20世紀半ばから今日にかけて、この身体文化が失われてきた。つまり、自分の身体にしっかりと中心を感じることでできる日本人がかなり減ってきていると著者は主張する。一体、日本人はどのように自分の身体を使い、扱い、これと向き合ってきたのか？身体文化をたどると、その背後にある行動様式や思考のあり方が「理に叶った」文化として見えてきます。



## 巨匠に教わる絵画の見かた

早坂優子 著  
視覚デザイン研究所

ルネサンスから20世紀絵画までを分かるやすい美術史年表，画家の言葉，時代背景などを楽しいイラストと共に解説している書物です。美術館鑑賞等が趣味としている人は楽しく読めます。

## 名画に教わる名画の見かた

早坂優子 著  
視覚デザイン研究所

「巨匠に教わる絵画の見かた」の続編的内容ですが，絵画鑑賞をテーマごとの切り口で楽しむ見方が紹介されています。これを参考に自分なりの美術館鑑賞の仕方見つけると良いでしょう。私の友人の学芸員は，絵画の空の表現に着目し天気予報をしながら絵画鑑賞している人がいます。楽しいですね。

❖ 英文 福嶋秩子 ❖

# 英文法の疑問 恥ずかしくてずっと聞けなかったこと

大津由紀雄 著  
NHK出版

英文法の本といえば、覚えなくてはいけないルールがぎっしり詰まっているようなイメージがありますが、これは違います。著者は「英文法のおもしろさ」を読者に味わってもらいたいと思ってこの本を書きました。英文法をめぐる素朴な疑問を切り口に、英語や日本語に共通のことばの原理を実践的に解き明かしています。英語が得意な人も苦手な人も、読めば目からうろこの箇所が必ずあります。読んでみてください。

## 問題な日本語

北原保雄 編  
大修館書店

「明鏡国語辞典」の編者と編集委員たちが執筆した、変な日本語についての解説本です。「こちら～になります」「よろしかったでしょうか」「なにげに」「全然いい」など、問題にされることが多い表現について、誤用かどうかを指摘するだけでなく、なぜこんな言い方が生まれるのかなど、現実の使用状況も踏まえながら解説しています。意外にも、けっこう多くの表現が間違いはないとされています。どんな判断がされているか、読んでみてください。

# 物は言いよう

斎藤美奈子 著  
平凡社

これも、ことばの実用書です。「それってセクハラ」「それって差別」と言いたくなりそうな表現は世の中にあふれていますが、言った当人は気づいていないことも多いですね。新聞・雑誌・書籍からとった具体的事例を、著者の考案したFC(フェミコード)に照らして解説しています。難易度 から となると、私自身言ったかもしれないというものも含まれています。保守政治家からジェンダーフリー論者まで、誰が読んでもためになる本です。

## オニババ化する女たち 女性の身体性を取り戻す

三砂ちづる 著  
光文社新書

女に生まれてよかったと思う女性の割合は、男に生まれてよかったと思う男性の割合より少ないと聞いたことがあります。理由はいろいろ考えられますが、出産や生理がある女性性そのものが女に生まれなければよかったと思う理由になることもあるようです。そんな人も、この本を読めば、女に生まれてよかったと思うのではないのでしょうか。

女性の性と生殖に関わる仕事をやってきた著者が、月経を「やり過ぎして」よいのか、「痛くてつらい出産」は本当かと問いかけ、かつての女性たちがもっていた女性の身体の知恵を明らかにしてくれます。男性にもぜひ読んでもらいたいと思います。

❖ 国際教養 水上則子 ❖

## 女帝のロシア

小野理子 著  
岩波新書

ロシアでもっとも高名な女帝であるエカチェリーナ二世の生涯を扱った書物は少なくありません。中でも、アンリ・トロワイヤの「女帝エカテリーナ」(翻訳は中公文庫所収。池田理代子の漫画の原作です)は、人物像を鮮やかに描き出している点で秀逸ですが、「好色な専制君主」というイメージを強調しすぎているようです。小野氏は、女帝自身の回想録や、親しかったダーシコワ夫人の証言をもとに、別の角度から光をあて、教養と才知を最大の武器として大国に君臨した一人の女性としてのエカチェリーナ像を浮かび上がらせることに成功しています。トロワイヤをまだ読んでいない人は、あわせて読むとより面白いでしょう。

❖ 国際教養学科 基本のほん ❖

## 痛快！コンピュータ学

坂村 健 著  
集英社文庫

コンピュータの誕生からインターネットのしくみ、情報処理の理論まで、とてもわかりやすくまとめられています。「コンピュータが好き」という人は、きっと楽しく読めるでしょう。そしてもし、「本当はちょっと苦手」と思っている人がいたら、この本はコンピュータと仲良くなれるチャンスを与えます。難しいと思うところはちょっと飛ばして、読みやすそうなところを選びながら読んで大丈夫。コンピュータとの付き合い方が、きっと変わってきます。

# 特集 詩の部屋への五つの扉

詩の本を薦める声がいくつもあったので  
「詩の部屋」としてまとめてみました  
あなたも開いてみませんか

❖ 国際教養 板垣俊一 ❖

## 百人一首を楽しくよむ

井上宗雄 著

笠間書院（2003年刊）

最もよく知られた古典和歌のアンソロジー『百人一首』を解説して人気があった本は、江戸時代に刊行された『百人一首一夕話』（尾崎雅嘉著、天保四年）でした。挿絵入りの案内書で、長く親しまれた本ですが、現代にもそんな案内書があれば、もっと古典を身近に感じられるだろうと思っていたところ、この本が出版されました。「楽しくよむ」ことができるかどうかは保証の限りではありませんが、見開き2ページで1首の歌の鑑賞になっていますので、はじめから通読する必要が無く、読みたいときに読みたいところを読めるという点でも、手に取りやすい本です。

## 茨木のり子 現代の詩人 7

茨木のり子

鑑賞：川崎 洋

編集者：大岡 信，谷川俊太郎

中央公論社

「自分の感受性ぐらい  
自分で守れ  
ばかものよ」

この言葉に初めて出会ったのは、皆さんと同じ年頃（たしか20歳を過ぎた学生時代～はるか彼方...）のことです。雑誌に紹介された、この詩をノートに夢中で書き留めたことを思い出します。その後、詩集『自分の感受性ぐらい』（花神社刊、1977年）を直接、手にすることができたのは、結婚まもなく夫の実家へ帰省中に足利学校近くの美味しい珈琲店に連れて行ってもらった時です。

「ばさばさに乾いてゆく心を  
ひとのせいにはするな  
みずから水やりを怠っておいて」

から始まる、この詩との二度目の出会いでした。それから、何回か、この詩が私を奮い立たせてくれています。

本書は、6冊の詩集から大岡 信，谷川俊太郎の両氏が編集し、川崎 洋氏の鑑賞文も読み応えあり、おまけに沢渡 朔氏の写真と安野光雅氏の装丁と、至れり尽くせりです。

図書館にもあります。発想の転換が必要な時に、お薦めします。

## おんなのことば

茨木のり子 著  
童話屋

収録されている詩のいくつかは、みなさんも一度はどこかで目にしたことがあるのではないのでしょうか。詩を読んで何を感じるか、どんな感情が湧き上がってくるか...それは一人ひとり異なるものでしょう。ですから、私がこの詞華集をどんなときに開くのか「私の場合」をお話しましょう。

私が真っ先に開くのは最後に収録されている「汲む」という詩のページです。ちょうど卒業される皆さんと同じくらいの歳にこの詩に出会いました。このページを開くのは、自信をなくしているとき。あ～無理をしないで肩肘を張らないでいいのかなと思う。また反対に、なんだか毎日に“馴れっこ”になってきているとき。毎日毎日がなんとなくうまく行って“ちょっといい気”になりそうなとき。詩をよんでどきんとする。若いときに出会ってよかった...私にとってはそんな風に思える詩なのです。

❖ 国際教養 柳町裕子 ❖

# 日本の名詩を読みかえす

高橋順子 編  
いそつぷ社

さむいね / ああさむいね  
虫がいないね / ああ虫がいないね  
もうすぐ土の中だね / 土の中はいやだね...

今回は、詩集を紹介します。でも、一人の詩人を選ぶのはむずかしいので、まずはいろんな詩人のアンソロジーを紹介することにしました。このようなアンソロジーはたくさんありますが、わたしはこの高橋順子さん（この人も詩人）の選択が好きです。それぞれの詩人の解説もついています。カエルの詩もにゃんこの詩も入ってま

## 汚れつちまつた悲しみに.....

### 中原中也詩集

中原中也 著  
集英社文庫

象を見せてもにゃあといひ  
鳥を見せてもにゃあだつた...

それでも、詩集を一冊（ひとり）紹介するとしたら・・・、あれこれ迷いましたが、中也にしました。あまりあつくない文庫本ですからポケットにも入ります。詩集はやはりポケットに入れておくのが正しい扱い方です。

# 「どこでもドアのかぎ9」アンケートのお願い

どこでもドアのかぎ・第9集の  
感想をおしえてください。  
以下のアンケートに記入して、生協店舗の  
「一言カードボックス」へ！  
抽選で50名の方に、500円分の図書券を  
差し上げます。

**締切 5月31日(火)**

「どこでもドアのかぎ9」全体についてのご感想・ご意見を書いて  
ください。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

この冊子を見て読みたくなった本があったら教えてください。でき  
れば理由もお願いします。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

(キリトリせん)

他にどんな分野の本を紹介してほしいと思いますか。希望をお聞かせください。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

その他、生協について、教職員委員会・学生委員会について、ご意見や要望があればお聞かせください。

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

所属 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

ご協力ありがとうございました。

（キリトリせん）